

Canon AV-1



使用説明書



日本語版

キヤノンA V-1はすでに発売されてご好評を
いただいているA-1, A E-1に続くA E一
眼レフカメラの第3弾です。

A-1およびA E-1に駆使された高度の開発
技術, 生産技術をもとにして完成されたカメ
ラです。

このカメラはカメラを初めて手にした方でも
上手にご使用いただけます。

同時にいろいろなアクセサリや交換レンズの
利用によりハイテクニックも十分楽しめるよう
になっています。ぜひ有効にご活用ください。
はじめに使用説明書を読みながら操作して,
ご理解の上ご使用ください。



後側の各部名称は裏表紙に折り込んであります。

3 開いたまま使用説明書の内容に照らし合わせてください。

主な性能

● 絞り優先式 A E

絞り優先式 A E 一眼レフカメラです。絞りをセットするだけで簡単に A E 撮影ができます。

● ストロボ調光撮影

キャノンスピードライト 155 A, 177 A 又は 199 A を取付けるだけで、適正露出が得られるストロボ調光撮影ができます。

● フィルムの自動巻上げパワーワインダー A

ワンタッチで取付けられるキャノンパワーワインダー A により、1 コマおよび 1 秒間約 2 コマの連続撮影が可能です。

● バリエティに富んだ高性能 FD レンズシリーズ
魚眼 7.5mm から超望遠の 1200mm まで 40 本以上にも及ぶ豊富な F D 交換レンズがそろっています。

● 絞込み A E

F D レンズによる開放測光 A E の他に、F L レンズや接写・複写用の中間チューブを利用することによって絞込み A E 撮影ができます。

● 自動露出補正

逆光撮影も露出補正スイッチを押すだけで簡単に行なえます。

● 接写・拡大・顕写システム

充実したシステムが駆使できます。

〈目次〉

基本的な撮影の操作手順

撮影前の準備…………… P.7

AE撮影…………… P.8

撮影終了後…………… P.9

各操作部分の説明

プラスチックカバー…………… P.11

ストラップの取付け…………… P.11

ケース…………… P.12

フード…………… P.12

レンズ…………… P.13

電池を入れます…………… P.16

電池チェックをします…………… P.17

フィルムをつめます…………… P.18

ASA感度(フィルム感度)を合わせます…………… P.20

セレクトダイヤルを合わせます…………… P.21

ピントを合わせます…………… P.24

露出を決定します…………… P.25

シャッターボタンを押します…………… P.26

ストロボ調光撮影…………… P.28

一般のストロボ撮影…………… P.29

セルフタイマー撮影…………… P.31

フラッシュを使用するセルフタイマー撮影…………… P.32

カメラの構え方…………… P.33

撮影終了後…………… P.34

各操作部分のくわしい働きと応用

露出補正…………… P.37

絞りを変えたときの効果…………… P.38

シャッタースピードを変えたときの効果…………… P.39

被写界深度…………… P.40

赤外マーク…………… P.40

測光範囲…………… P.42

手動絞込み撮影…………… P.43

FLレンズの手動絞込み撮影…………… P.43

FDレンズの手動絞りロック撮影…………… P.44

フィルム位置マーク…………… P.45

アクセサリーのご紹介

アクセサリー…………… P.47

主要性能…………… P.51

カメラの保管と手入れ…………… P.53

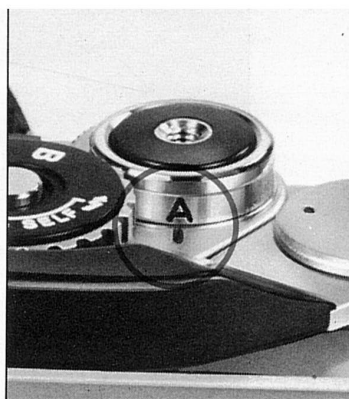
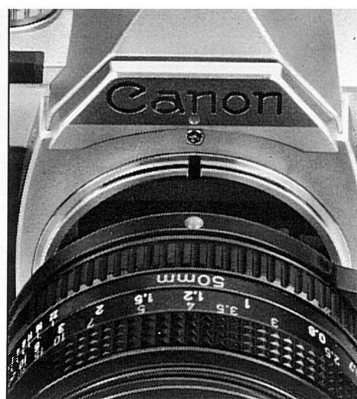
アフターサービスについて…………… P.55

基本的な撮影の操作手順

基本的なAE(自動)撮影の手順をご紹介します。
撮影に入る前に各部を操作してください。
すぐに撮影ができるようになります。

撮影前の 準備

撮影に入る前に
カメラの準備をして
おきましょう。



1 レンズを取付けます。(P.13)

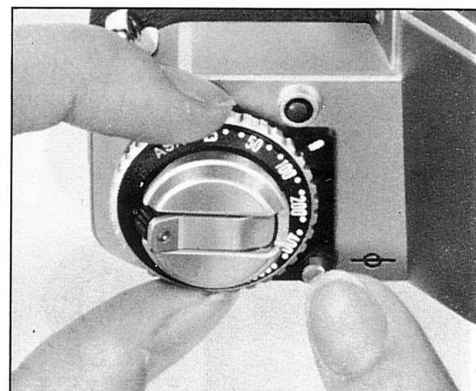
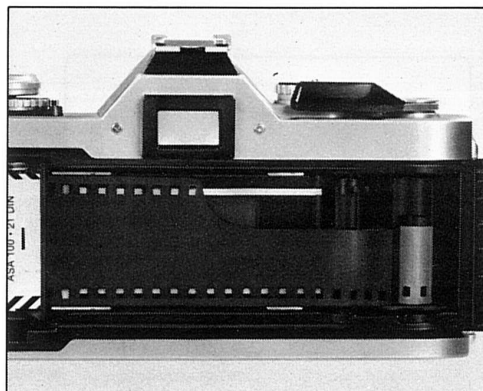
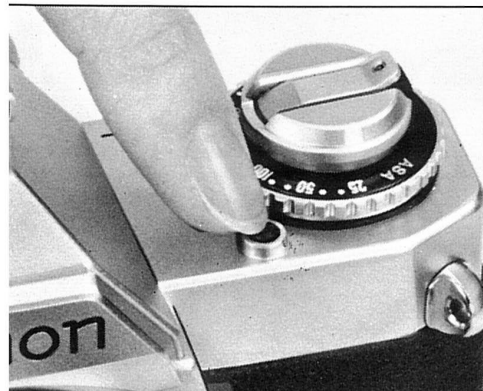
2 シャッターボタンロックレ
バーがAにセットしてある
ことを確認します。

3 電池を入れます。(P.16)

4 電池チェックをします。(P.17)

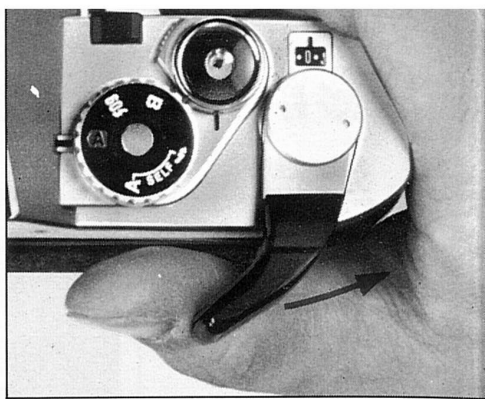
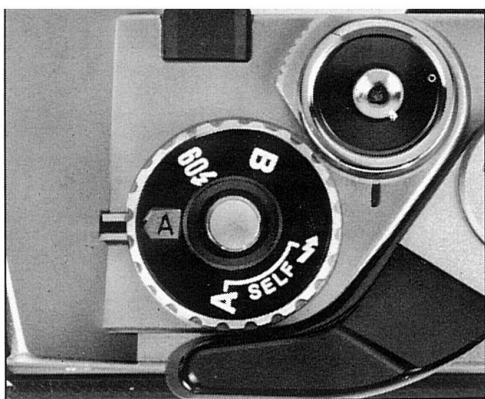
5 フィルムをつめます。(P.18)
※圧着板上のプラスチックカバーが
取外されていることを確認します。

6 フィルム感度(ASA)を合わせます。
(P.20)



A E 撮影

撮影準備が
できたらA E撮影に
入ります。



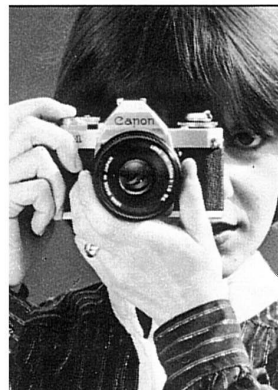
1 セレクターダイアルのAを指標に
合わせます。(P.21)

2 巻き上げレバーを巻上げます。

3 ファインダーをのぞいてピン
トと構図を決めます。(P.24)

4 シャッターボタンを軽く押してフ
ァインダー内右側のメーターを見
ながら露出を決定します。(P.25)

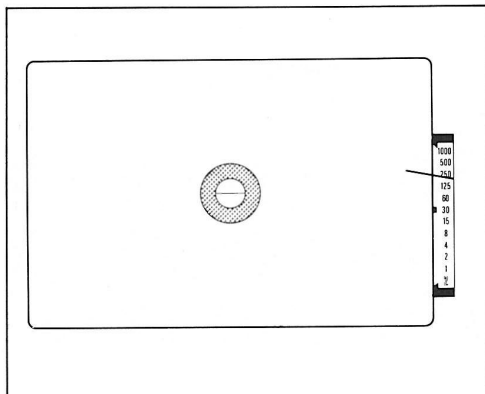
5 シャッターボタンを静かに押し
ます。(P.26)



ピントがはずれている

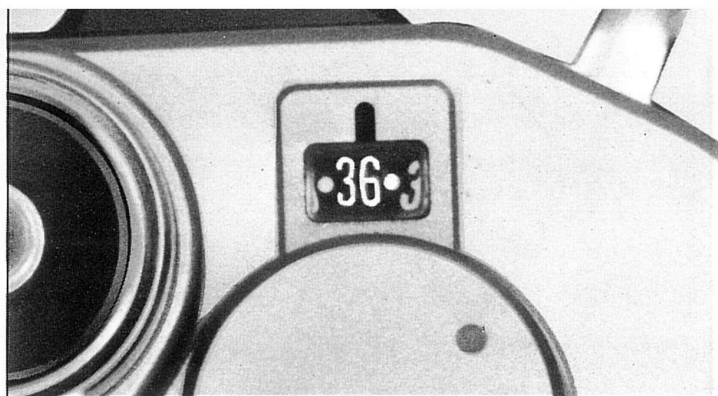


ピントが合っている



撮影 終了後

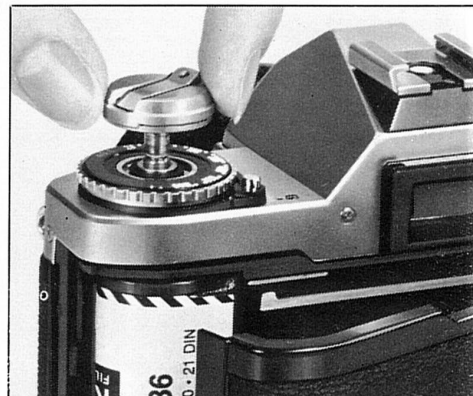
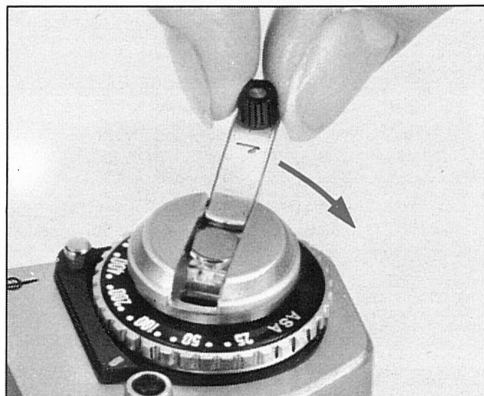
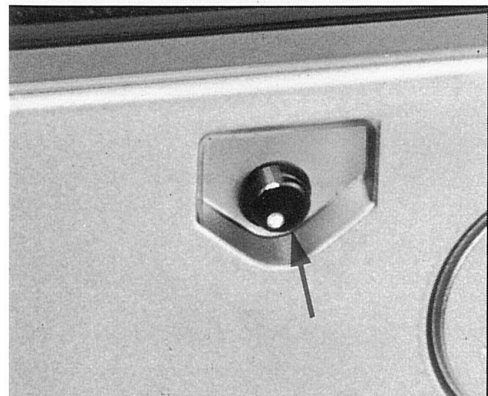
所定枚数が
撮り終わったらフィルム
を取出します。



1 フィルム巻戻しボタンを押します。(P.34)

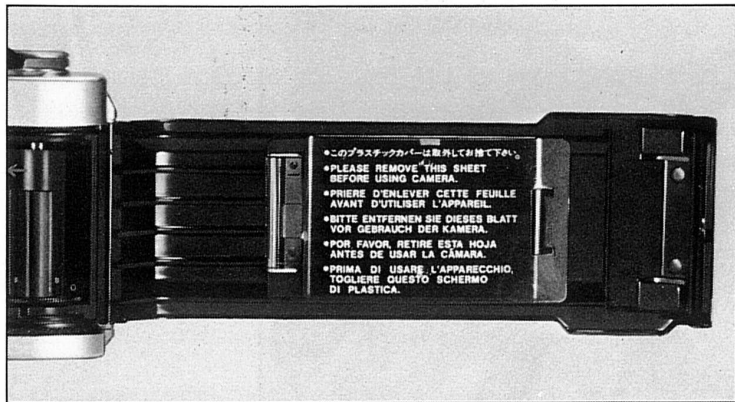
2 フィルムを巻戻します。(P.34)

3 裏蓋を開けてフィルムを取出します。(P.34)



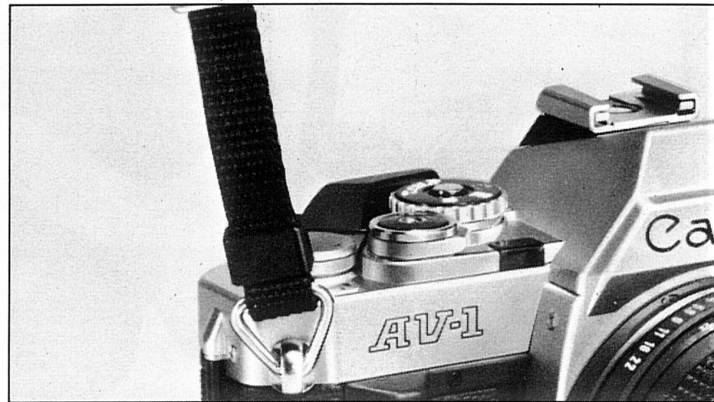
各操作部分の説明

各部の操作方法をご説明します。よく読んで正しい使い方をしてください。



プラスチックカバー

カメラを操作する前に、裏蓋を開いて裏蓋の内側に付いているプラスチックカバーを捨ててください。裏蓋は巻戻しクランクを引っぱると開きます。



ストラップの取付け

吊り環にネックストラップを通します。ストラップの先端は内側になるように取付けます。



ケース

携帯するときにはカメラを保護するために、できるだけ皮ケースを取付けてください。取付け方は写真をご参照ください。

前カバーは上方にスライドさせると外れます。なおレンズの目盛を∞にセットしておくと、ケースに入れやすくなります。

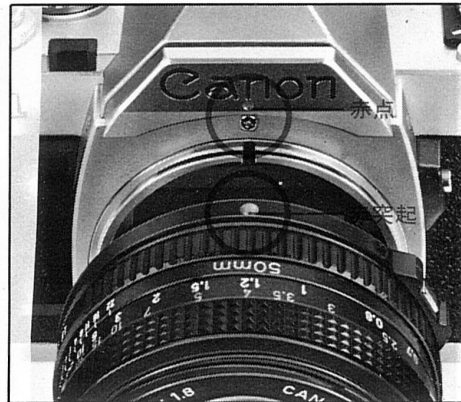
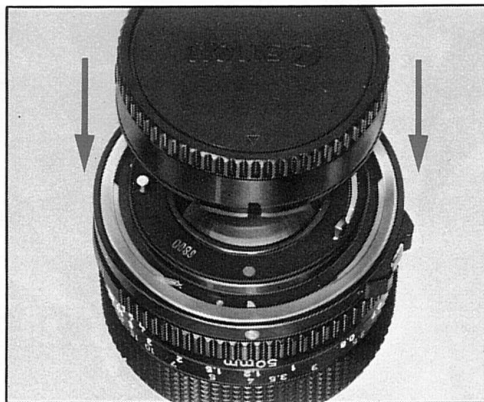
フード

レンズフードは有害光線をカットするために使います。

レンズ先端に取付けて使用しますが、使用しないときはフードを逆向きにかぶせて固定できます。

カメラカバー

カメラボディのレンズ装着部分を保護しているのがカメラカバーです。レンズを取付けるときに外してください。



レンズ

レンズキャップ

レンズ前面のキャップは、両側のつまみを押すと外れます。

ダストキャップ(底蓋)

ダストキャップを外すときは、ダストキャップを反時計方向に止まるまで回し、引いてください。取付けるときは、ダストキャップにある△印とレンズの位置ぎめピンを合わせ、ダストキャップを時計方向に回します。

レンズの取付け方

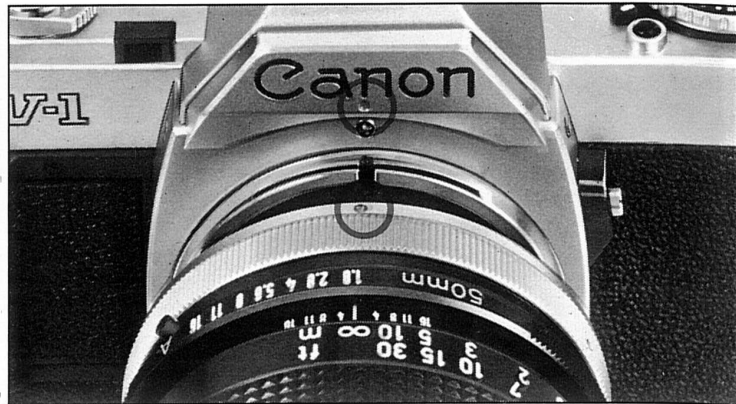
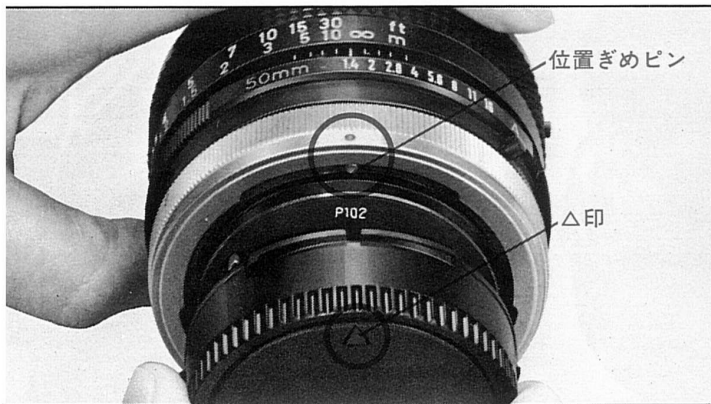
カメラの赤点とレンズの赤突起を合わせて、

レンズを時計方向に回します。完全に取付くとカチッという音がして、レンズ取外しボタンがもち上がります。暗い場所でも赤突起の突出している感触と、カチッという装着音をたよりに取付けることができます。

●レンズを取付けるとき、絞りリングが回ってAにセットされることがありますので注意してください。

レンズの外し方

レンズ取外しボタンを押しながらレンズを反時計方向に回し、止まったら手前に引きます。



締付けリングをもつFDレンズの場合 ダストキャップ(底蓋)

ダストキャップを外すときはレンズを後から見て、バヨネットリングを時計方向に回すと外れます。

取付けるときはレンズ底部の位置ぎめピンとダストキャップの△印を合わせて、押付けながらバヨネットリングを回します。

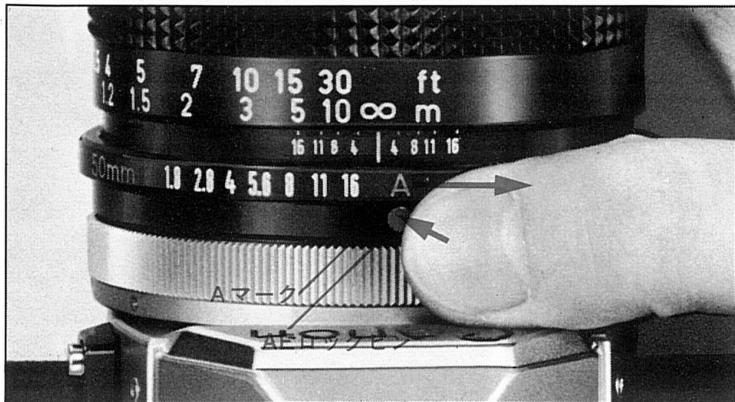
レンズの取付け方

カメラの赤点とレンズのバヨネットリングの赤点を合わせ、押付けながらバヨネットリングを時計方向に一杯に回します。

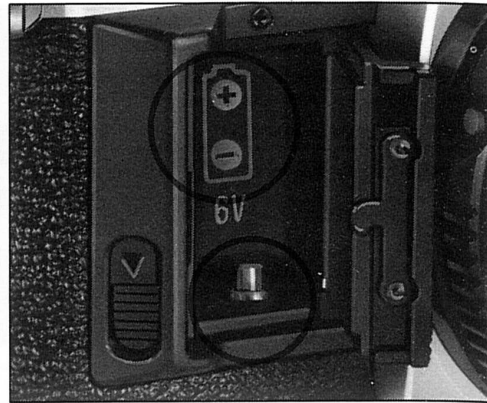
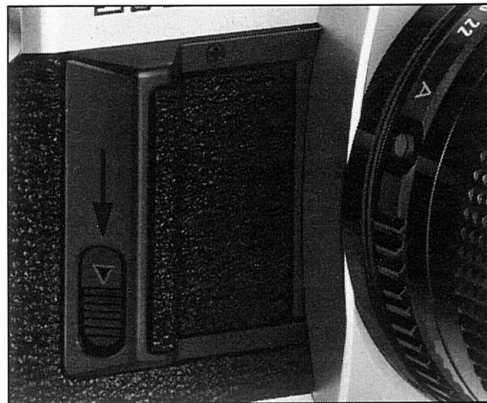
取外すときは、バヨネットリングを反時計方向に回します。

絞りリング

レンズの絞りリングを確認してください。指標にAマークがセットされていると使用レンズの最小絞り値にセットされてしまいますので、必ず絞りをAマークから外しておいてください。Aマークの外し方は、AEロックピンを押しながら絞りリングを回します。



- FDレンズは各種の信号ピンを内蔵していますので、レンズを取外したときはこれらの信号ピンやレンズ面をキズつけないように、取付側を上向きにして置いてください。
- カメラを使用しないときには必ずレンズキャップをしてください。

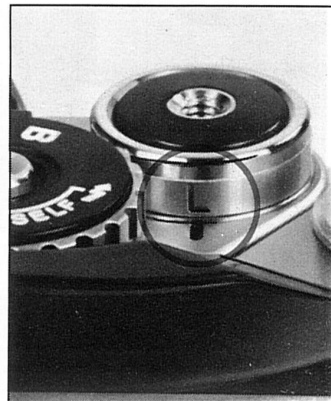
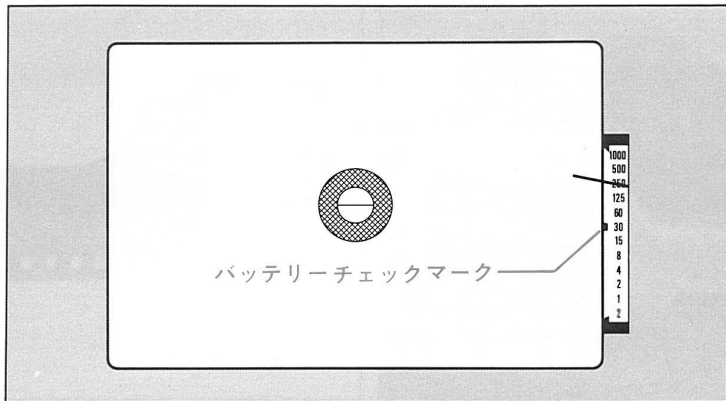


電池を入れます

1. 電池室カバー開放 ボタンを矢印の方向に押すと電池室カバーが開きます。
2. 電池は電池室内の図にしたがって、 \oplus \ominus の向きをまちがえないように入れます。

使用可能電池	
酸化銀電池 4SR44(4G13) (6V)	エバレディ(UCAR)No.544 マロリー-PX28
アルカリマンガン電池 (6V)	エバレディ(UCAR)No.537

- -10°C 以下の低温地では電池性能が低下しますので、低温の場所で使用する際はあらかじめ電池を保温して使用してください。
- 電池は普通に撮影して約1年間使用できます。
- 電池を入れる際は、電池側およびカメラ側の接点を拭いてください。

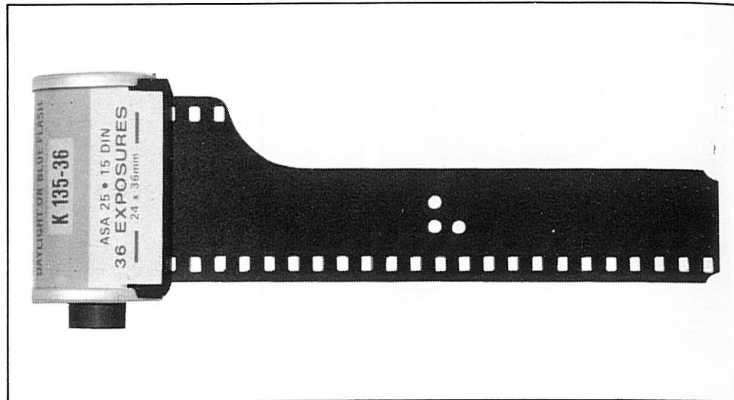


電池チェックをします

ファインダーをのぞきながらバッテリーチェックボタンを押します。

指針がバッテリーチェックマーク上か、それより上に振れていれば電池の電圧は十分です。

- 電池性能が下がるとシャッターは作動しません。ご使用前には必ずバッテリーチェックをしてください。
- シャッターボタンロックレバーをL位置にしておくと、無駄写しや不用意なボタン押しによる電池消耗を防ぎます。
- 長期間の撮影旅行などの際は予備電池をご用意ください。



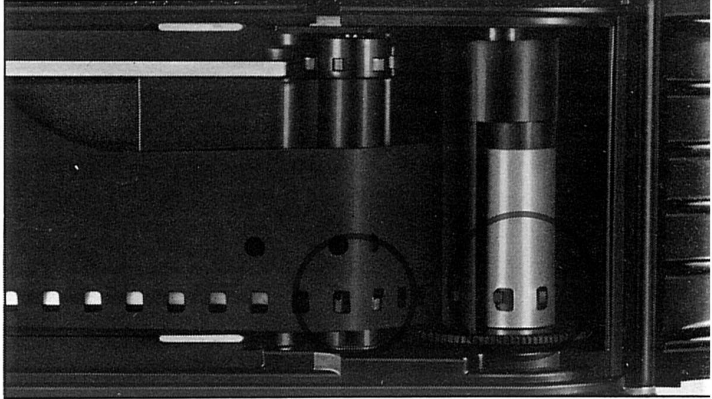
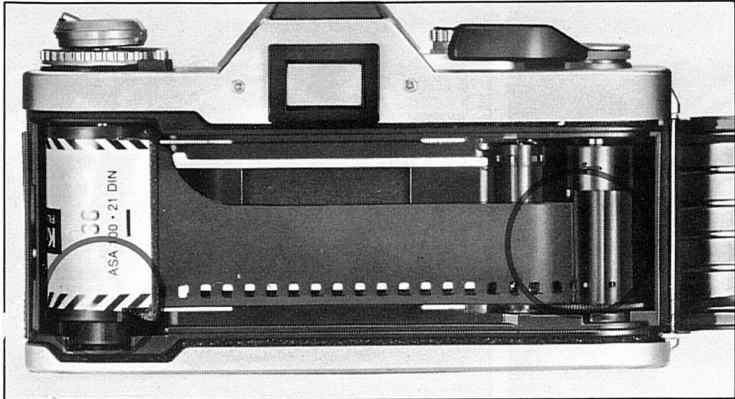
フィルムをつめます

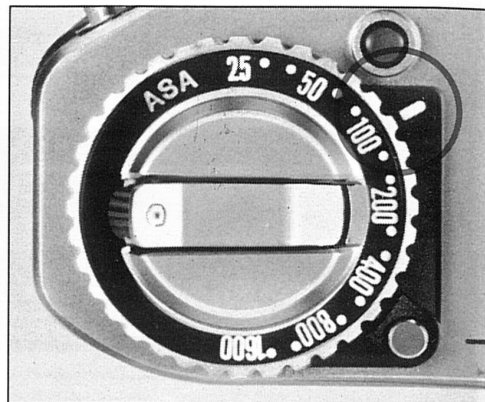
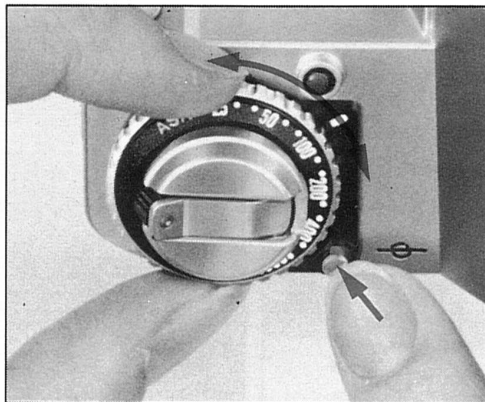
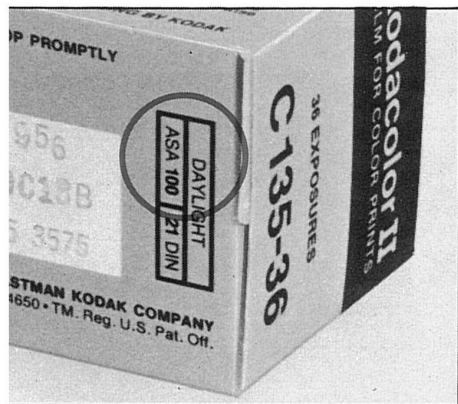
1. 巻戻しクランクを上引っばると裏蓋が開きます。
2. フィルム室に写真のような向きでフィルムパトローネを入れ、巻戻しクランクを押下げます。
3. フィルムを少し引出して先端をスプール溝に差込み、突起にパーフォレーションの穴がかかるように注意しながら、巻上げレバーを回してフィルムを巻付けます。
4. 巻取り軸にフィルムが巻付いていることを

確認してからフィルムのたるみを取るために巻戻しレバーを矢印方向に止まるまで静かに回します。

5. 裏蓋を押しつけて閉じます。
6. 巻上げレバーを回しシャッターボタンを押す操作を2回繰返すとフィルムカウンターに0が出ます。次の巻上げで1枚目の撮影準備が完了します。

● 巻上げの間、巻戻しクランクが回っていればフィルムは正常に送られています。





ASA感度(フィルム感度)を合わせます

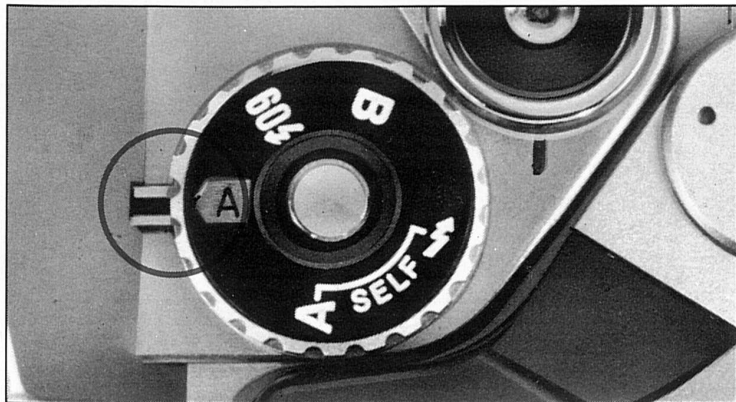
ASA感度ロックボタンを押しながらASA感度セットダイヤルを回して、使用フィルム感度を指標に合わせます。

●フィルム感度はフィルムが光に感じる度合いを数字で表わしたもので、数字が大きくなるほど光に感じ易くなります。フィルムの外箱に露光指数としてASA100などと明示されています。

ASA25⁽³²⁾ ⁽⁴⁰⁾ 50 ⁽⁶⁴⁾ ⁽⁸⁰⁾ 100 ⁽¹²⁵⁾ ⁽¹⁶⁰⁾ 200 ⁽²⁵⁰⁾ ⁽³²⁰⁾ 400
⁽⁵⁰⁰⁾ ⁽⁶⁴⁰⁾ ⁽¹⁰⁰⁰⁾ ⁽¹²⁵⁰⁾
 800 1600

フィルム選択の目安

日中戶外撮影ではASA100程度が適当です。例えばASA400というような高感度フィルムは室内撮影とか光量の少ない条件下の撮影に適しています。



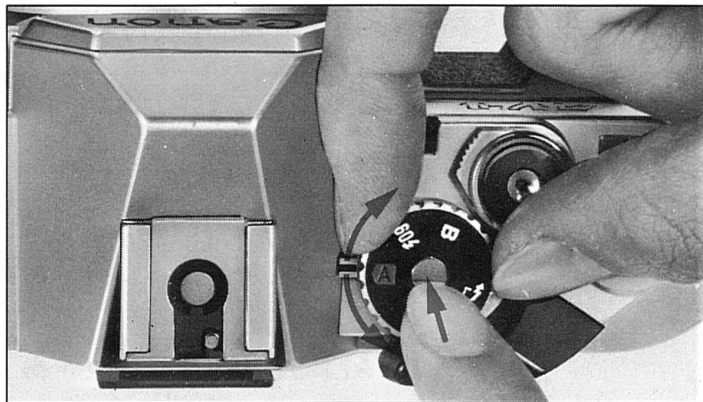
セレクターダイヤルを合わせます

セレクターダイヤルを回して指標に合わせます。


Ⓐのところではロックがかかりますので、Ⓐからはずすときは中央のオートロック解除ボタンを押しながら回してください。

●指標位置(クリックストップ位置)以外のところは使用しないでください。

Ⓐ AE撮影をする場合にはこのマークにセットします。ストロボ撮影も、キヤノン199Aや177A、155Aを使用すれば、ここにセットしたままで撮影できます。



通常はこの位置で使用します。

60  キヤノン199Aや177A、155A以外のストロボを使用して撮影する場合には、このマークにセットします。シャッタースピードが $\frac{1}{60}$ 秒に設定されます。

Bここにセットするとシャッターボタンを押している間中、シャッターが開いています。(バルブ露出)夜景などで2秒を越える長時間撮影のときにご利用ください。

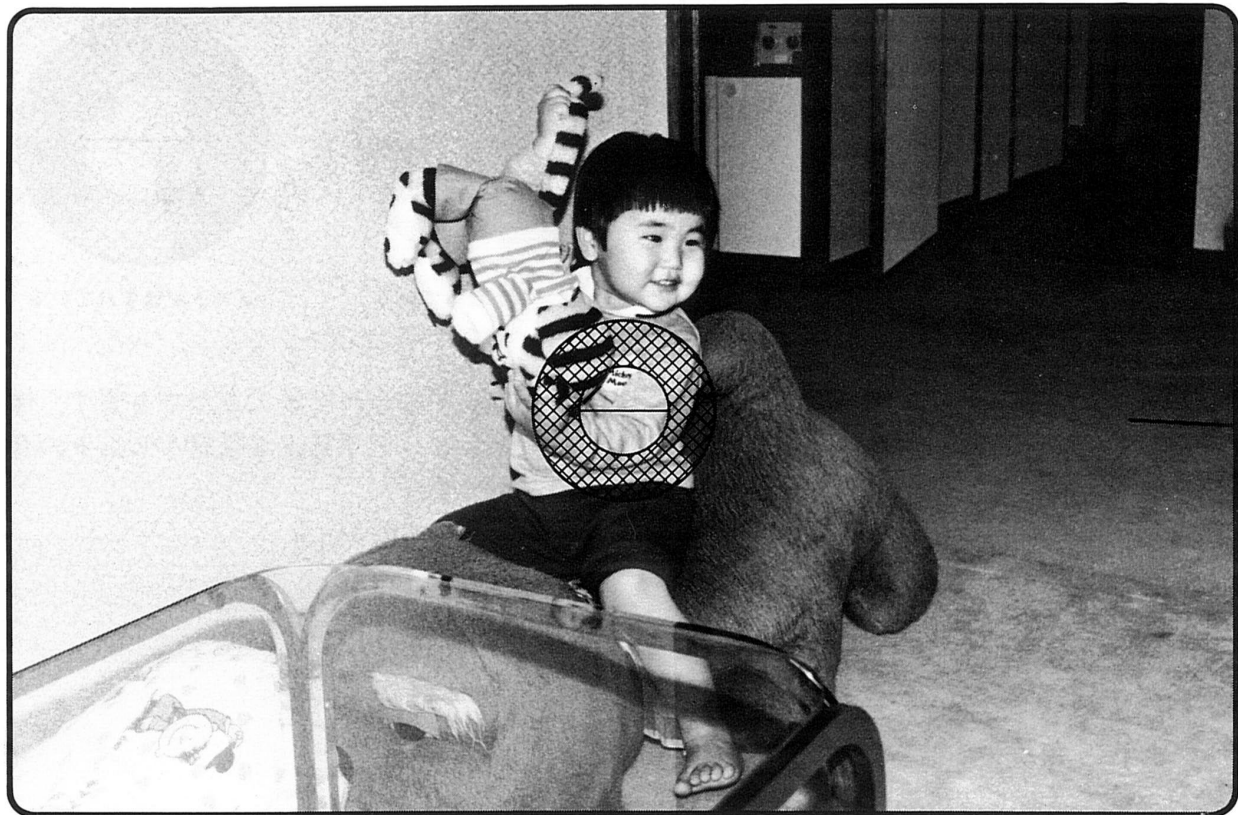
※Bにセットするとファインダー指針

が振れますが、測光とは無関係です。
※B使用時は特に電池消耗が激しいので新品電池を用意してください。

SELF A E 撮影でセルフタイマーを使用する場合にセットします。キヤノンスピードライト199Aや177A, 155Aを使ったストロボ撮影でセルフタイマーを使用するときもここに合わせます。

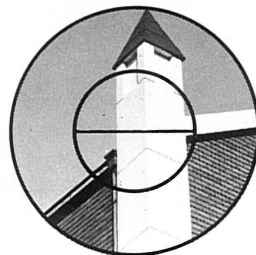
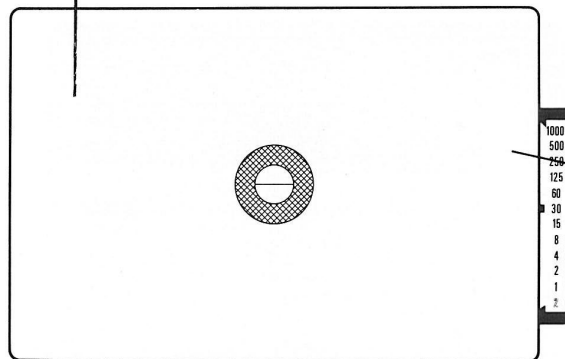
SELF 199Aや177A, 155A以外のストロボ撮影でセルフタイマーを使用するときセットします。



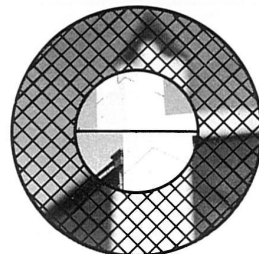


1000
500
250
125
66
30
15
8
4
2
1
2

マット面



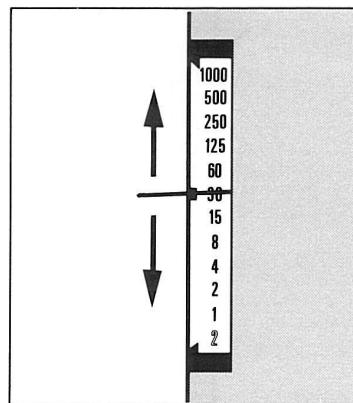
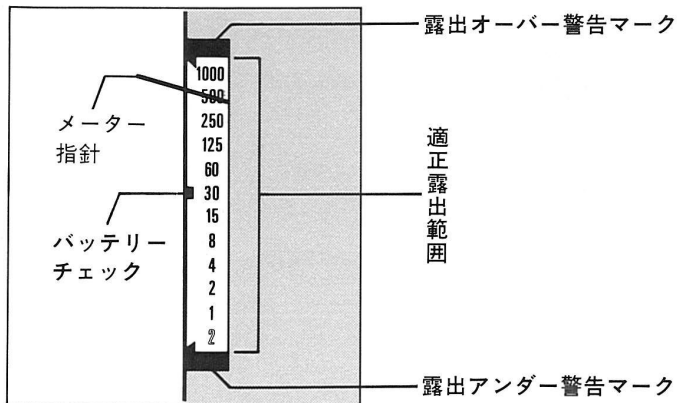
ピントが合っている



ピントがはずれている

ファインダーをのぞいてピントを合わせます
ファインダーをのぞいた範囲が写ります。レンズの距離リングを回しながらファインダー中央の円形内でピントを合わせます。
中央の上下に分割された像が一致すればピントの合った状態で、像が左右にずれていればピントがはずれた状態です。
外側の円は像がもっともはっきり見える状態がピントの合ったときで、像が崩れてギザギザに見えるときは、ピントのはずれているときです。また、ファインダー内全体のマット

面でもピントを合わせることができます。像がもっともはっきり見える状態がピントの合ったときです。



露出を決定します

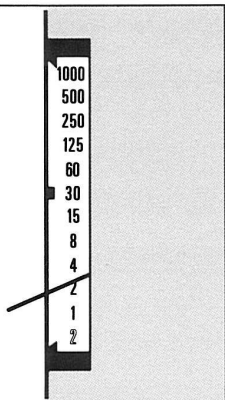
ファインダーをのぞいてシャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内右側のメーターが作動します。

シャッターボタンは2段階になっていて、シャッターボタンを軽く押すと第1段階で測光が行なわれ、さらに押すとシャッターが切れます。

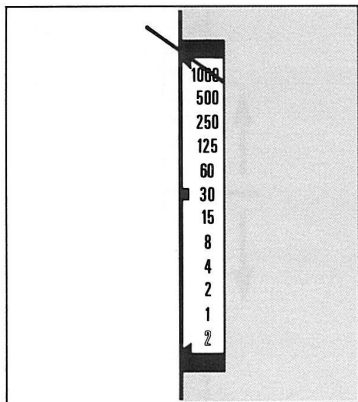
このカメラは絞り優先式カメラなので自分の選んだ絞りに対してシャッタースピードが自動的に変わるようになっています。レンズの

絞りリングを回して絞り値(F値)を大きくしていくと、シャッタースピードは遅くなっていきます。絞り値を小さくしていくとシャッタースピードは速くなっていきます。このカメラは2秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までの間、被写体の明るさによって連続無段階にシャッタースピードが変化しますが、目安としてファインダー内にシャッタースピード目盛がつけられています。 $\frac{1}{60}$ 秒、 $\frac{1}{125}$ 秒などの分母だけを表示してあります。(ただし右下の2は2秒です)

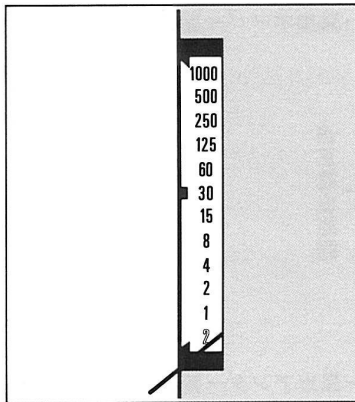
1. シャッターボタンを軽く押してシャッター



スローシャッター



露出オーバー



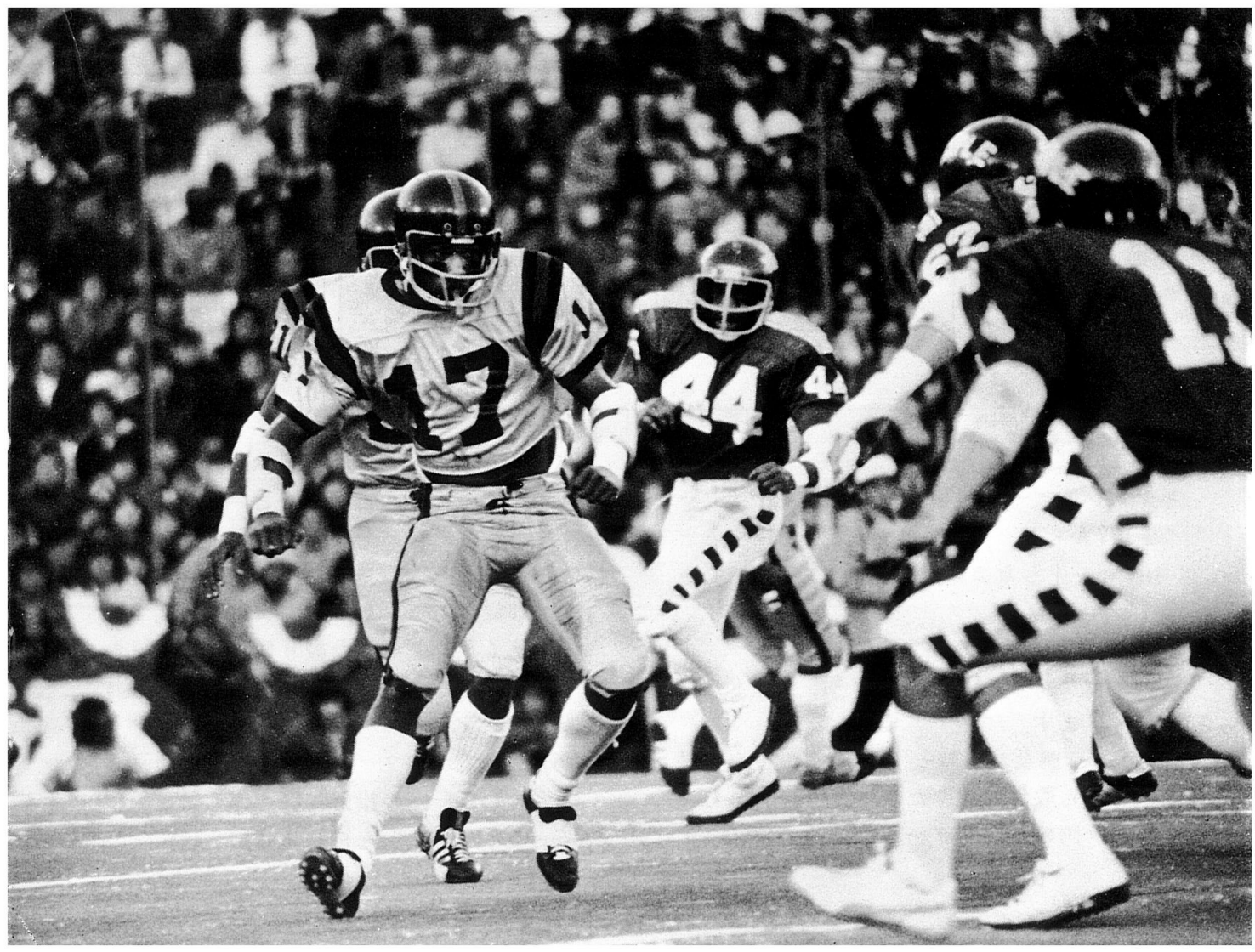
露出アンダー

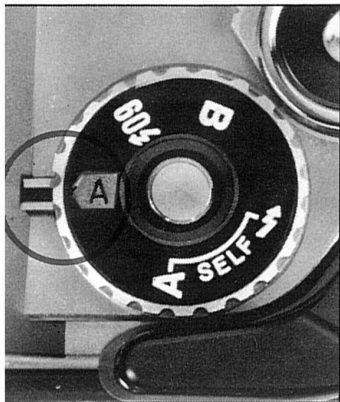
スピードを確認します。 $\frac{1}{30}$ 秒以下のスローシャッターを指していたら絞りを数値の小さい方に回すか、ストロボ撮影に切換えることをおすすめします。そのままシャッターボタンを押してもAE撮影はできますが、手ぶれをおこすおそれがありますので、三脚とレリーズをお使いください。上下の赤い部分(露出オーバー・アンダー警告マーク)を指していたら不適正露出です。露出オーバーなら絞りの数値を大きい方に、露出アンダーなら絞りの数値を小さい方に回してください。

●望遠レンズを使うときは、ぶれの影響が多くなりますので、できる限り早いシャッタースピードを選んでください。一般に使用レンズの焦点距離と同じ数値以上を使用します。例えば100mmレンズなら $\frac{1}{125}$ 秒、200mmレンズなら $\frac{1}{250}$ 秒です。

2. カメラをしっかりつかまえて、シャッターボタンを静かに押します。

●撮影しないときは不用意にシャッターボタンが押されないように、シャッターボタンロックレバーを(L)にしましょう。





ストロボ調光撮影

キャノンスピードライト199Aとスピードライト177Aスピードライト155Aを使用すると **A** にセットしたままでストロボ撮影ができます。

1. アクセサリーシューにスピードライトを取り付けます。

● カメラ側及びスピードライト側の接点を拭いてから取付けてください。

2. カメラ側のセレクトダイヤルを **A** にセ

ットします。

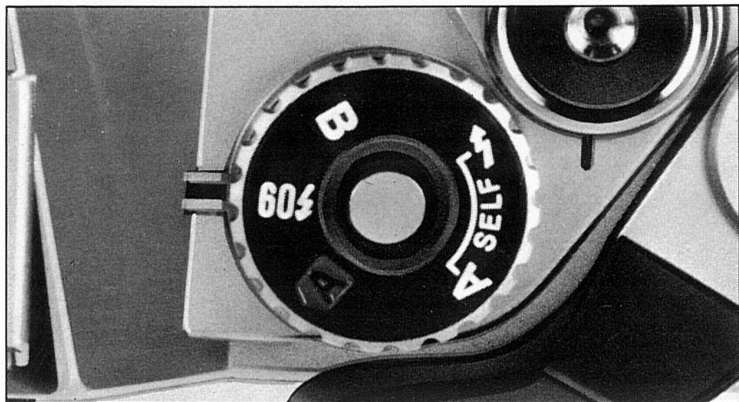
3. カメラ側のASA感度とスピードライトのASA感度を合わせます。

4. スピードライト調光絞り選択スイッチを赤または緑にセットし、レンズの絞りもスピードライトで選択した絞り値に合わせます。

5. スピードライトのスイッチをONにします。

6. スピードライトのパイロットランプの点灯を確認してからファインダーをのぞきます。ファインダー内の指針は60を指します。

7. シャッターボタンを押します。



- スピードライトを取付けたままの状態でも、スピードライトのスイッチをOFFにしてあるときや、パイロットランプが点灯していないときには一般のAE撮影になります。
- なおくわしくは、それぞれの使用説明書をご参照ください。
- FLレンズも同様に使用できます。

一般のストロボ撮影

199Aや177A,155A以外のストロボを使用するときは、セレクターダイアルの60 $\frac{1}{60}$ を指標に合わせます。シャッタースピードが $\frac{1}{60}$ 秒にセットされます。

一般の調光ストロボの場合は、絞りをストロボ指定の絞り値にセットしてください。

調光ストロボでない一般のストロボの場合は、ガイドナンバー計算で絞り値をきめてセットしてください。

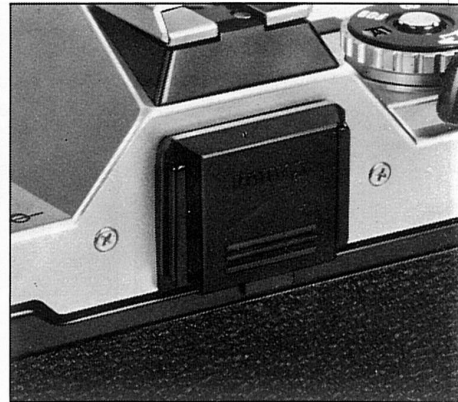
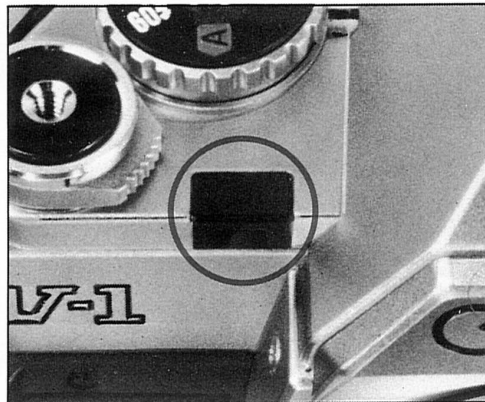
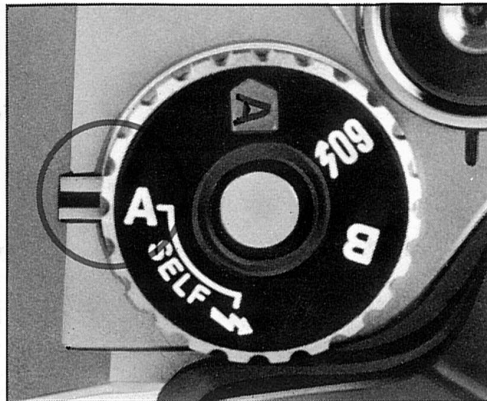
ガイドナンバー計算のしかたは、

$$\text{絞り値(F値)} = \frac{\text{ガイドナンバー(m)}}{\text{撮影距離(m)}}$$

なお、くわしくは各使用ストロボの使用説明書をごらんください。

- セレクターダイアルをBにセットしてもストロボ撮影ができます。
- フラッシュバルブは使用できません。





セルフタイマー撮影

セレクターダイヤルをA SELFにセットします。他は一般のAE撮影と同じです。シャッターボタンを押すとそのときの露出が記憶され、約10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動表示ランプが点滅します。シャッターが切れる2秒前には点滅速度が早くなって予告します。

シャッターボタンを押してからセルフタイマー撮影を途中で解除したい場合は、バッテリーチェックボタンを押してください。セルフタイマーが解除されます。

●ファインダーから目を離して撮影する場合、例えばレリーズを使用するときなど、ファインダーから逆に光が入って露出が狂うことがありますので、アクセサリシューに差込んでいるファインダーカバーをファインダー接眼部に取付けてからシャッターボタンを押してください。

●セルフタイマー撮影ではシャッターボタンを押した時点の露出が記憶されますので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。



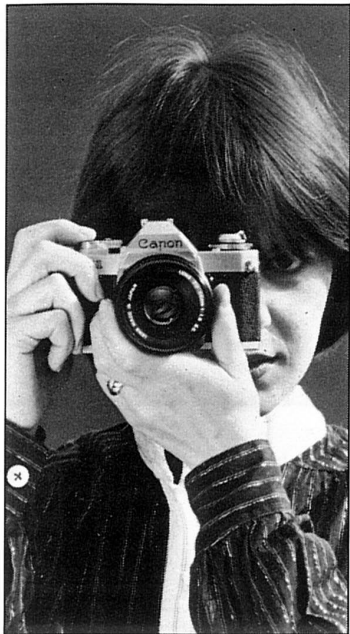
この間にはセットしないでください。
セルフタイマーは作動しません。

フラッシュを使用するセルフタイマー撮影

キヤノンスピードライト199 Aや177 A, 155 Aを使用した場合のセルフタイマー撮影は、セレクターダイヤルをA SELFにセットしてください。

一般のストロボを使用する場合のセルフタイマー撮影はセレクターダイヤルをSELFに合わせてください。

シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターが切れます。

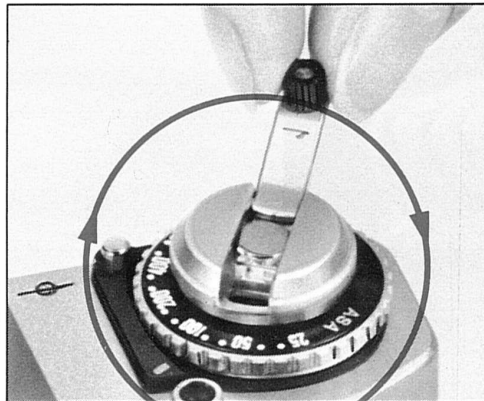
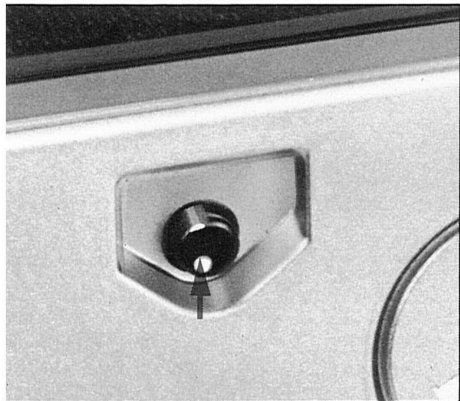


- 縦位置、横位置とも一方のひじを必ず体に密着させて安定させてください。
- 足はやや開きかげんの方が安定します。

カメラの構え方

きれいな写真を撮るためには手ぶれをふせがなければなりません。写真のようにカメラをしっかりと持ちアクショングリップに指をかけて安定させます。

左ひじを体につけ、カメラを額につけてシャッターを静かに押してください。



撮影終了後

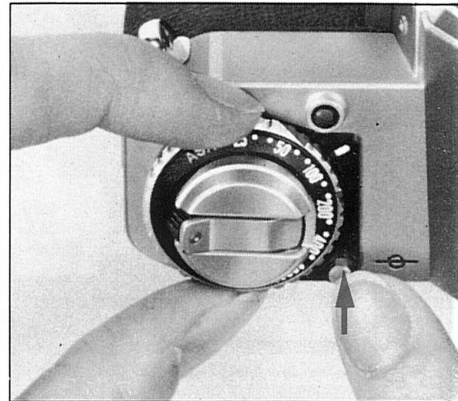
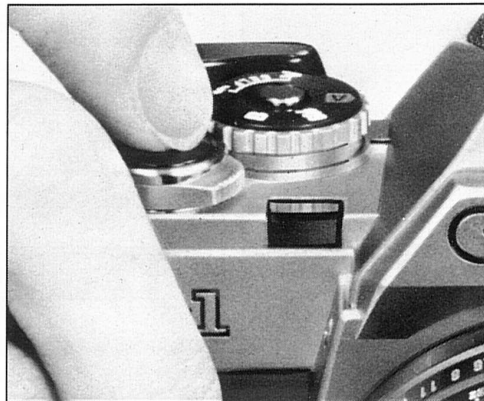
巻上げが重くなったらフィルムカウンターを見てください。指定枚数を終了したらフィルムを巻戻して取ります。

1. カメラ底部の巻戻しボタンを押します。
2. 巻戻しクランクを起こして矢印方向に回します。
3. 巻戻しの手ごたえが軽くなり、巻戻しボタンの白点が動かなくなったら巻戻し完了です。
4. 巻戻しクランクを引上げて裏蓋を開き、フィルムを取り出します。



各操作部分のくわしい働きと応用

これまで基本的なAE撮影について説明してきましたが、これからの応用編を読んでいただいて、より楽しく写真を撮るために役立ててください。



露出補正

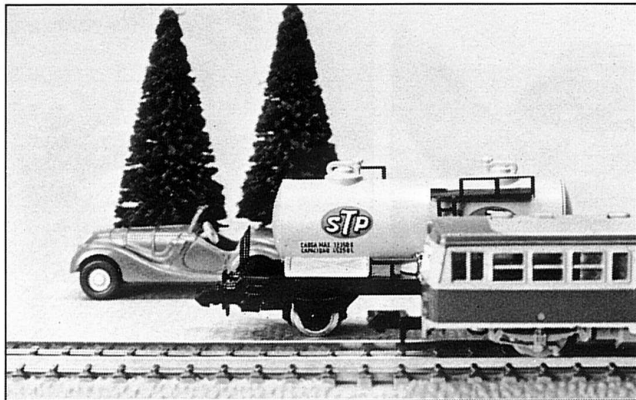
逆光撮影の自動露出補正

室内で明るい窓を背景にして人物撮影などをすると、人物が露出不足になることがあります。このような逆光撮影では露出補正スイッチを押したままシャッターボタンを押してください。メインの被写体が適正露出になります。

A S A感度による露出補正

A S A感度数値が $\frac{1}{2}$ になると露出量が2倍になる関係にありますので、感度の切換えによっても露出補正ができます。例えば逆光撮影でA S A 100のフィルムを使用しているとき、A S A感度目盛を25にセットし直せば被写体に4倍の露出を与えることができます。

F11



絞りを変えたときの効果

絞りはレンズを通してフィルムに届く光の量を調節するもので、F値で表わします。F値は数字が大きくなるほどレンズを通る光の量は少なくなります。

F1.8



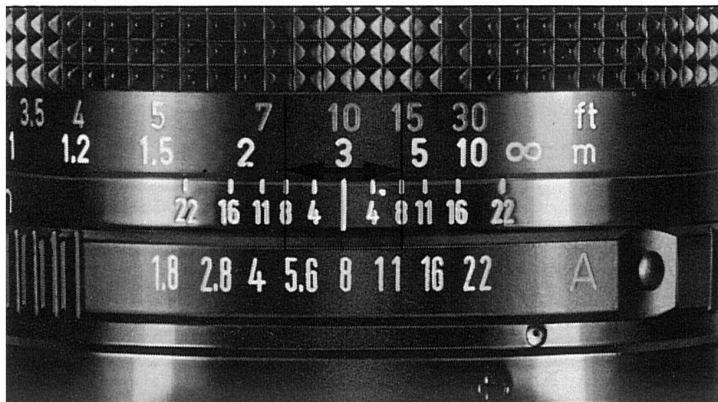
右の写真は絞りをF1.8で撮影したもので左の写真は絞りをF11にして撮影したものです。右の写真は前後がボケて、ピントを合わせたものが強調されています。左の写真はメインの被写体の前後もはっきりと写っています。このように絞りが変わると被写体の前後の関係も変わってきます。

$\frac{1}{60}$  $\frac{1}{1000}$ 

シャッタースピードを変えたときの効果
 シャッタースピードは光の量を時間的に調節する役目をもっていて、こちらは $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{500}$ 、 $\frac{1}{1000}$ と数値が小さくなるほど光の量は少なくなります。

左の写真はシャッタースピードが $\frac{1}{60}$ 秒で撮影したもので、右の写真は $\frac{1}{1000}$ 秒で撮影したものです。このようにシャッタースピードを変えることによって動きの表現を自由にコントロールできます。

動きのあるものを撮る場合や望遠レンズを使用するときは早いシャッタースピードにします。このカメラは絞り優先方式のカメラですから絞りを定めることによって、シャッタースピードを変えることができます。



被写界深度

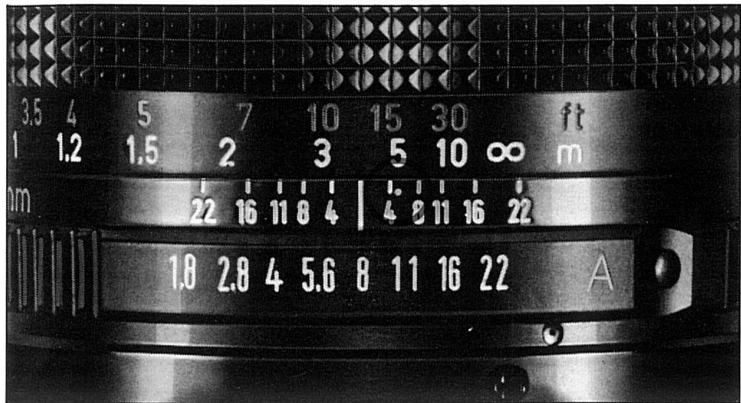
ある1点にピントを合わせると、その前後にはっきりと写る範囲があります。これを被写界深度と呼びます。被写界深度を確認するにはレンズの被写界深度目盛を使って読取ります。

距離指標の両側に並んでいる1対のF値が被写界深度目盛です。被写界深度は深度目盛に対応する距離目盛から読取ることができます。例えば、ある被写体を50mmレンズで撮影するときに、絞りがF8、距離が3mとしますと、

被写界深度目盛のF8に対応する距離目盛を読み取ります。すると約2.4mと4.5mが得られます。この範囲が鮮明に写ることになります。

赤外マーク

黑白用赤外フィルムを使用したときの距離指標です。一度ファインダー内でピント合わせをしてから、その目盛りを赤外マークに合わせ直します。例えば最初にピントを合わせその結果が5mならば、距離目盛の5を距離指標から赤外マークに合わせ直します。



また赤外線フィルムを使用したときは、必ず赤色フィルターを使ってください。その他赤外撮影についてはフィルムの使用説明書に従ってください。ただしカラー赤外フィルムの場合ピント修正は不要です。



AV-1の測光連動域

EV	TV	2	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/120	1/250	1/500	1/1000
0		1.4	1.2										
1		2	1.4	1.2									
2		2.8	2	1.4	1.2								
3		4	2.8	2	1.4	1.2							
4		5.6	4	2.8	2	1.4	1.2						
5		8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2					
6		11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2				
7		16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2			
8		22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2		
9		32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2	
10			32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2
11				32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4
12					32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2
13						32	22	16	11	8	5.6	4	2.8
14							32	22	16	11	8	5.6	4
15								32	22	16	11	8	5.6
16									32	22	16	11	8
17										32	22	16	11
18											32	22	16

測光範囲

シャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出量の値をEV値といいます。

ASA 100で50mm F1.4のレンズでEV 1 (1秒 F1.4)～EV 18 (1/1000秒 F16) の範囲です。

このカメラのAE撮影はこの範囲で使用できます。



手動絞込み撮影

このカメラはFDレンズとの組み合わせによる開放測光AE方式のカメラです。開放絞りのまま、どの絞りに対しても露出が測れます。しかしFLレンズを使う場合や、オートベローズ、エクステンションチューブなどの接写関係アクセサリーを使う場合には、絞込み測光方式になります。

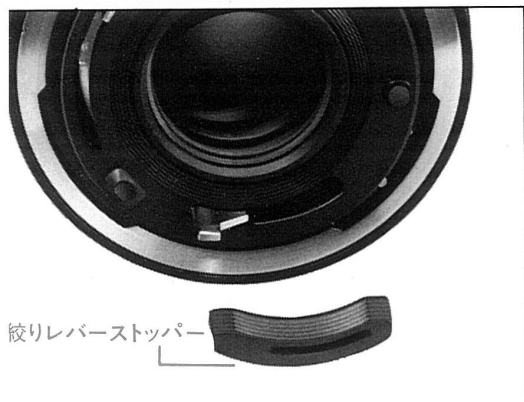
FLレンズの手動絞込み撮影

FLレンズの手動絞りリングをM位置にセットします。ファインダーをのぞいてピントを合わせた後で、実際に使用する絞りにセットして露出を測ります。

○手動絞込み撮影では、ファインダー内メーターがAEで連動します。

取付けられない例外レンズ

FL 19mm F 3.5, FL 35mm F 2.5, FL 50mm F 1.8, FL 58mm F 1.2



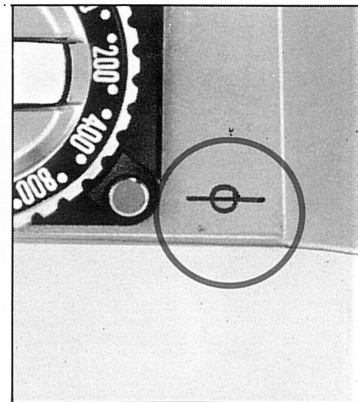
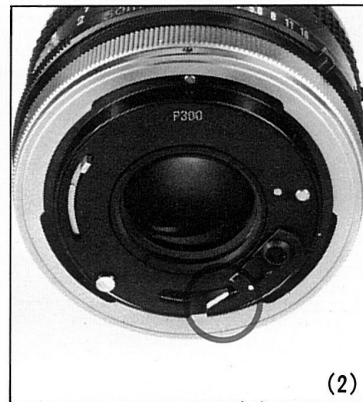
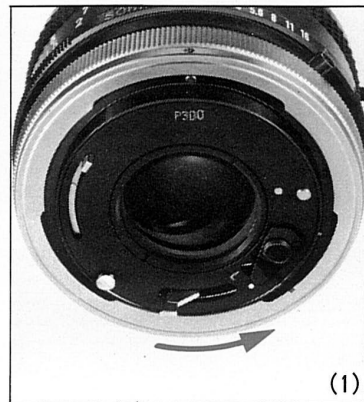
FDレンズの手動絞りロック撮影

レンズとボディの間に絞り連動ピンのない中間チューブなどをはさんで撮影する場合は、レンズを手動絞りに切換えます。

○自動絞りレバーの上に、絞りレバーストッパーの穴を合わせて写真のように乗せ、反時計方向に動かします。一杯に動かしたら上からストッパーを押して固定します。

この状態で中間チューブを取付けると、絞りリングを回すことによって絞り羽根が開閉できるようになります。解除するときは自動絞りレバーを元の位置へ戻します。

○縮付けリングを持つレンズは後部の自動絞りレバーを反時計方向に一杯に回すとレバーは固定されます。解除するときは自動絞りレ



バーを元の位置へ戻します。

○縮付けリングを持つレンズで、後部に手動ロックレバーが付いているものは、自動絞りレバーを反時計方向に動かしたまま手動ロックレバーを(L)位置へ動かしてロックします。手動ロックレバーを(L)位置から戻すと自動絞りレバーが自動的に戻り、解除されます。

※拡大撮影でマクロフォトカップラーにレンズを逆向きに取り付けるときは、レンズ底部にマクロフードを取付けます。取付け方はダストキャップと同様です。

フィルム位置マーク

フィルム位置マークはカメラ内のフィルムの位置を示したものです。レンズの距離目盛はこのマークから測った被写体までの距離です。フィルム位置マークは一般撮影では使用しませんが、接写・拡大撮影のときのように被写体までの距離を実測する場合に役立ちます。

アクセサリーのご紹介

キヤノンAV-1には各種アクセサリーが用意されています。これらアクセサリーを併用することによって写真撮影を一層楽しいものにしてくれます。

アクセサリ



155A



177A



199A

キャノンスピードライト155A, 177A, 199A
AV-1に取付けて簡単にストロボ調光撮影ができます。カメラのセクターダイヤルはAのままで、スピードライト側の絞り値にレンズの絞り値を合わせるだけ。パイロットランプが点灯するとシャッタースピードが自動的に $\frac{1}{60}$ 秒にセットされる専用調光ストロボです。スピードライトを取付けたままでもスピードライトのスイッチをOFFにすれば、そ

のままで一般のAE撮影ができます。ガイドナンバーは155Aで17m, 177Aで25m, 199Aで30m(ASA100で新品電池使用)です。さらに199Aはヘッドの回転によるバウンス撮影や24mmレンズも使用できるワイドアダプターも取付けられます。177Aも28mmレンズをカバーできるワイドアダプター付きです。用途によってお選びください。



パワーワインダーA

パワーワインダーAはフィルム自動巻き上げ装置です。カメラ底部のワインダーソケットカバーを外して取付けるだけで、秒間約2コマまでの撮影ができます。連続と一コマ撮影が、どのシャッタースピードでもできますから、被写体の動きや瞬間の表情などを思いのままにとらえることができます。

なおシャッタースピードがスロー側になると手ぶれしやすくなりますので注意してご使用ください。

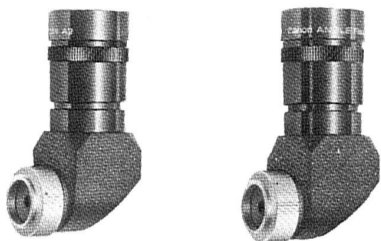




視度補正レンズ(10種)

近視、遠視の方でも、眼鏡なしで撮影できるアクセサリです。ファインダー接眼部に取付けて使用します。視度は-4～+3（ジオプター）まで10種類ありますので、実際にカメラに取付けて、確かめてからお選びください。

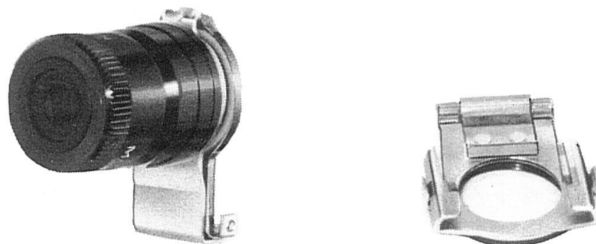
●視度補正レンズを取付けたまま裏蓋を開閉すると裏蓋上面にキズが付きますので、視度補正レンズを外してから行なってください。



アングルファインダー A₂, B※

ファインダー接眼部に取付ける胸高ルーペで

90°回転しますので、上からでも横からでものぞくことができます。接写、複写、拡大撮影に使用すると大変便利です。2種類あってA₂は左右逆像、Bは正立正像です。



マグニファイヤーS※

複写、顕微鏡写真撮影などの場合に、ファインダー内の像を2.5倍に拡大して観察できる直観ルーペです。視度の調整は+4～-4（ジオプター）の範囲です。

アイカップ4S※
マクロフォトカプラー
レンズフード
マイクロフォトフード
フォトマイクロユニットF
スピードライト500A
スライドデュプリケーター
ハンディスタンドF
ギャゼットバッグGM-1
ギャゼットバッグGL-1
ギャゼットバッグGL-2
ギャゼットバッグGS-1
ギャゼットバッグL-1
ギャゼットバッグL-2
キャノンレリーズ30
キャノンレリーズ50
フィルター 各種
クローズアップレンズ各種
マクロフォトレンズ20mm F3.5
マクロフォトレンズ35mm F2.8
デュプリケーター-8

デュプリケーター-16
デュプリケーター-35
三脚アダプターA★
フォーカシングレール
マクロオートリング
マクロステージ
ロールフィルムステージ
ダブルケーブルリリース
コピースタンド5
コピースタンド4
オートペローズ
ペローズM
ペローズFL
エクステンションチューブMセット
エクステンションチューブFD
15-U, FD25-U, FD50-U
エクステンダーFD2×A
ステップアップリング52-55
スナップケースSA-2
スナップケースSB-2
スナップケースSC-2

★雲台の広い三脚を使用するとレンズのフォーカシングリングや絞リングが回しにくくなるので雲台とカメラの間に三脚アダプターA(別売)をご使用ください。
※マークのアクセサリを取付けたままでは裏蓋が開きませんので裏蓋を開閉するときは取外してから行なってください。

主要性能

形式：完全電子制御式35mmフォーカルプレーンシャッター一眼レフTTLによるAEカメラ

画面サイズ：24mm×36mm

使用レンズ：FDレンズ群(開放測光使用)
FLレンズ群(絞込み測光使用)

レンズマウント：バヨネット式マウント

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野の大きさ：上下92%，左右93%

ファインダー内情報：スプリットとマイクロプリズムの複合型距離計，メーター指針，シャッタースピード目盛，露出不適正警告マーク，バッテリーチェックマーク

ミラー：クイックリターンミラー

AE機構：絞り優先式AE，デジタル/アナログ方式による

測光範囲：ASA100でEV1(1秒・F1.4)～

EV18($\frac{1}{1000}$ 秒・F16)

使用フィルム感度：ASA25～ASA1600

露出補正：露出補正スイッチの押込みによりオーバー側に+1.5F補正

露出の読取り：シャッターボタンの第1ストロークで確認

シャッター機構：全速完全電子制御の4軸式布幕フォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード：オート：2秒～ $\frac{1}{1000}$ 秒
マニュアル： $\frac{1}{60}$ 秒及びB(バルブ)

シャッターボタン：電磁リリース式ボタン，第1ストロークで測光回路のスイッチが入りメーター作動，第2ストロークでシャッターリリース，シャッターボタンロック可能，リリースソケット付

セルフタイマー：電子制御式，時限約10秒
タイマー作動中はランプ(LED)が点滅表示

電源：6V酸化銀電池(4SR44，エバレディNo.544，マロリーPX28)またはアルカリ

電池(エバレディ(UCAR)No537, ナショナルマロリー7K34)

電池チェック：バッテリーチェックボタンを押してファインダー内指針の振れによって読取る。

フラッシュ接点：X接点, アクセサリーシュー一部に直結接点(ホットシュー)あり

フラッシュオート：専用スピードライト(155A, 177A, 199A)使用によりシャッタースピードは自動的に同調スピード($\frac{1}{60}$ 秒)にセットされる。絞りは調光絞り値をレンズ側に手動セット。

裏蓋：巻戻しクランク引上げにより開放

フィルム装てん：多スリットスプールによる簡易装てん

フィルム巻上げ：巻上げ角 120° (1作動), 小刻み巻上げ可能。予備角 30° , パワーワインダーAによる自動巻上げ可能。

フィルムカウンター：順算式, 自動復帰

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよび上部クランクによる巻戻しボタンは巻上げにより自動復帰

大きさ・重量：139mm(幅)×85mm(高さ)×47.5mm(奥行)・490g ボディのみ

※都合により製品の仕様及び外観の一部を変更することがあります。

商品構成

ボディ：ファインダーカバー,
フラッシュターミナル
キャップ, カメラカバー
RF, ネックストラップ7,

レンズ：レンズキャップ, ダストキャップ

カメラの保管と手入れ

保管

カメラは湿気やほこりを嫌いますので、保管するときはケースを外し電池を抜出して、常温で湿気の少ない所を選んで保管してください。長期間使用しないで放置しておくと、カビや故障の原因になることがありますので、ときどきは外気に触れさせ、シャッターを切るようにしてください。

高温場所に放置すると故障の原因になりますので特に注意してください。車のトランクやリヤウインドなどはかなり高温になることがありますので避けてください。

実験室などのように薬品を扱う場所、障脳やナフタリン入りのタンスなども、サビや腐蝕、内部油の劣化等の原因になりますので避けてください。カメラを長持ちさせるには、3年に1度位は、最寄りのサービスステーションで点検することをおすすめします。

特に長期間使用しなかったカメラは各部を点検してからご使用ください。

手入れ

レンズとファインダーはブローブラシで砂やホコりを吹払った後、クリナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭取ってください。

海辺などで使用したカメラは塩分がついていますので特に良く拭いてください。

カメラのミラーボックス内はブローブラシで吹払うだけにしてください。

フィルム室内にはフィルムカスなどが付きやすいため、常にゴミを吹払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにすりキズをつける原因になります。

レール面や圧着板をふく場合はクリナー液とクリーニングペーパーを使用してください。その際、シャッター幕には手をふれないでください。



ファインダー接眼部

裏蓋

ワインダー接点

ワイナダー
ガイドホール

ワイナダー
ソケットカバー

巻戻しボタン

三脚ねじ穴

レンズ

アフターサービスについて

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。尚、運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
 - 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。尚、故障の原因や内容によっては、期間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買上げ店又は、裏表紙記載の当社サービス機関にお問合せ下さい。
- ★ 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付する等、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送り下さい。

品 名 キヤノンAV-1

ボディ番号

レンズ番号

氏 名

住 所

電話番号

備 考

